

中央市地域公共交通計画策定調査等業務

地域特性の整理・分析

令和 4 年 10 月



[目次]

1. 地域特性の整理、分析	1
1-1 地域の特性	1
1-2 地域公共交通の現状.....	15

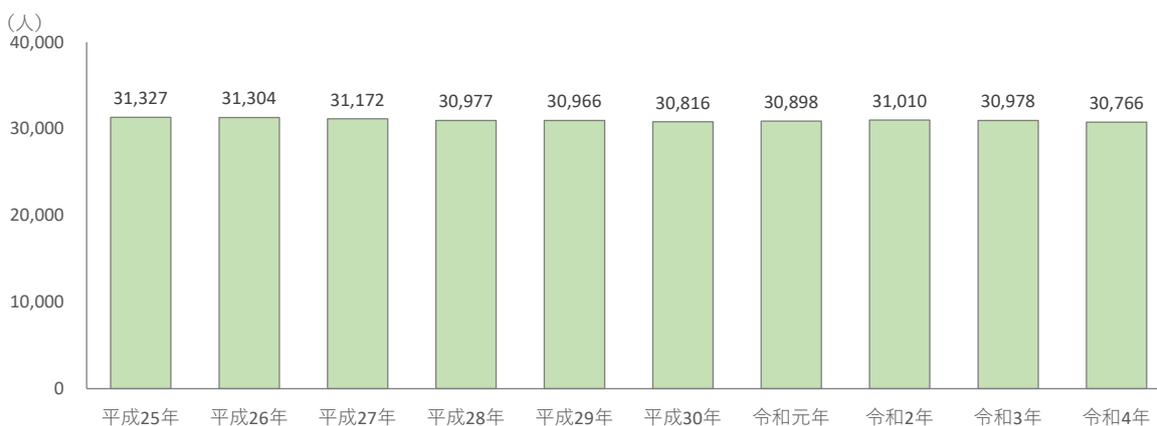
1. 地域特性の整理、分析

1-1 地域特性

1-1-1 人口動態

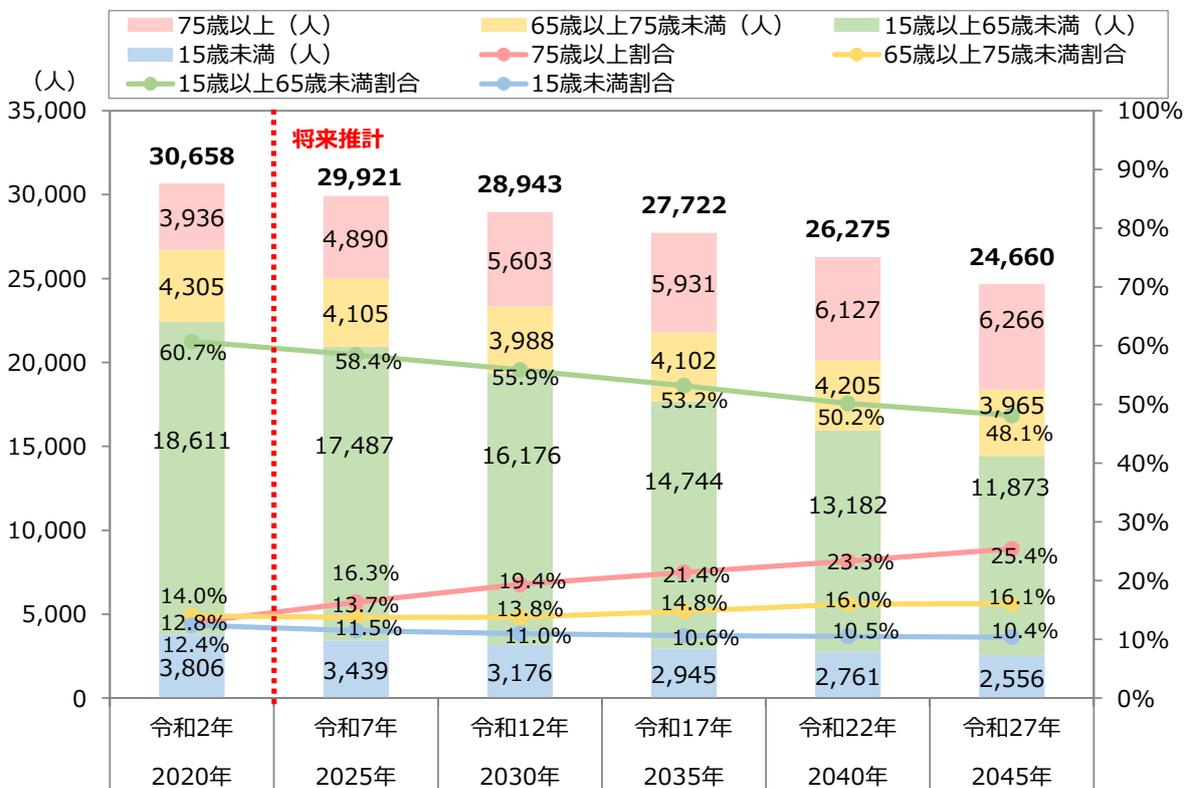
1) 人口推移および人口推計

- 本市の人口は横ばいに推移しており、令和4年では30,766人となっている。
- 国立社会保障・人口問題研究所による人口推計では、2045年まで人口が減少すると推計されており、24,660人まで減少（約1割減）すると推計されている。
- 加えて、75歳以上人口の割合は増加する見込みである。



出典：総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査（各年1月1日現在）

図 人口推移



出典：国立社会保障・人口問題研究所 H30.12.25 版

図 将来人口推計

2) 年齢別人口

○ 令和3年度の年齢別人口を見ると、40代が4,525人、50代が4,347人と多くっており、60歳以上の人口は、全人口の31.9%となっている。

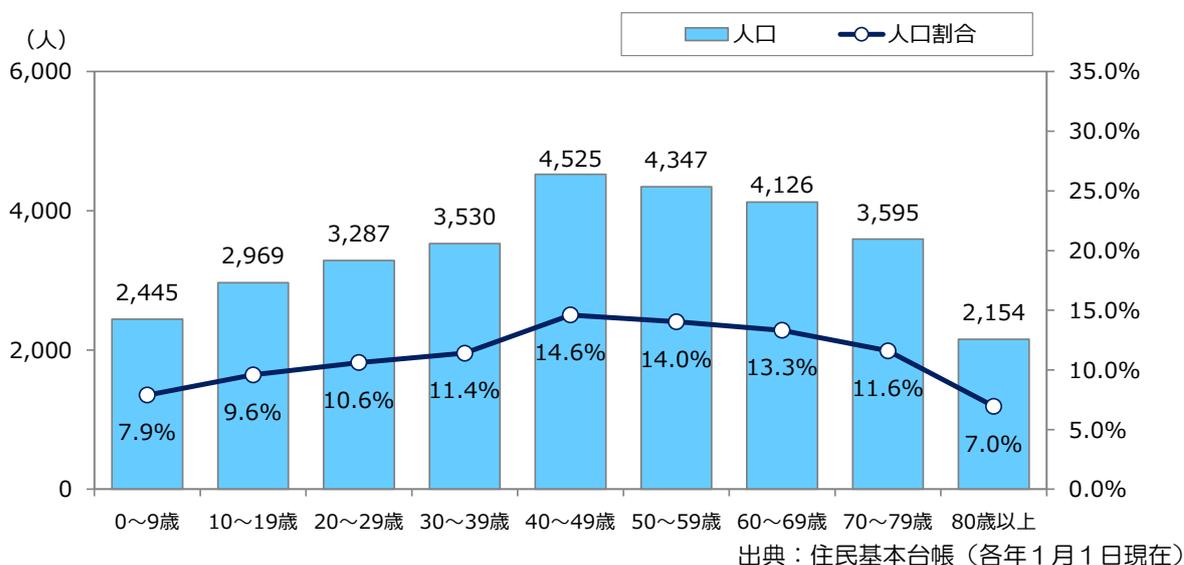
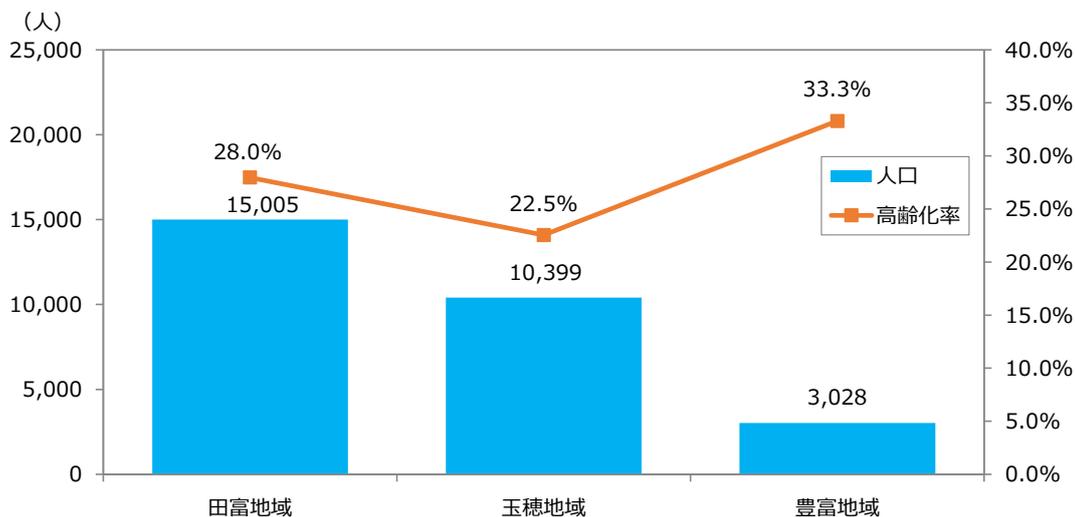


図 年齢別人口

3) 地区別人口

- 地区別人口を見ると、令和2年で田富地域が15,005人と最も多く、人口が集中している。玉穂地域にも一定程度の人口集中がみられる。
- 一方で、豊富地域では、人口が3,028人と比較的少なくなっている。加えて、高齢化率も33.3%となっており、市内でも高齢化が進行している地域である。



出典：R2年度国勢調査 ※年齢不詳を含まない

図 地区別人口

4) 人口分布

- 人口分布を見ると、市の北部（田富地域・玉穂地域）に人口が集積しており、特に鉄道沿線や山梨大学医学部附属病院などに人口集積がみられる。
- 豊富地域は、県道 29 号線沿線に人口集積がみられる。

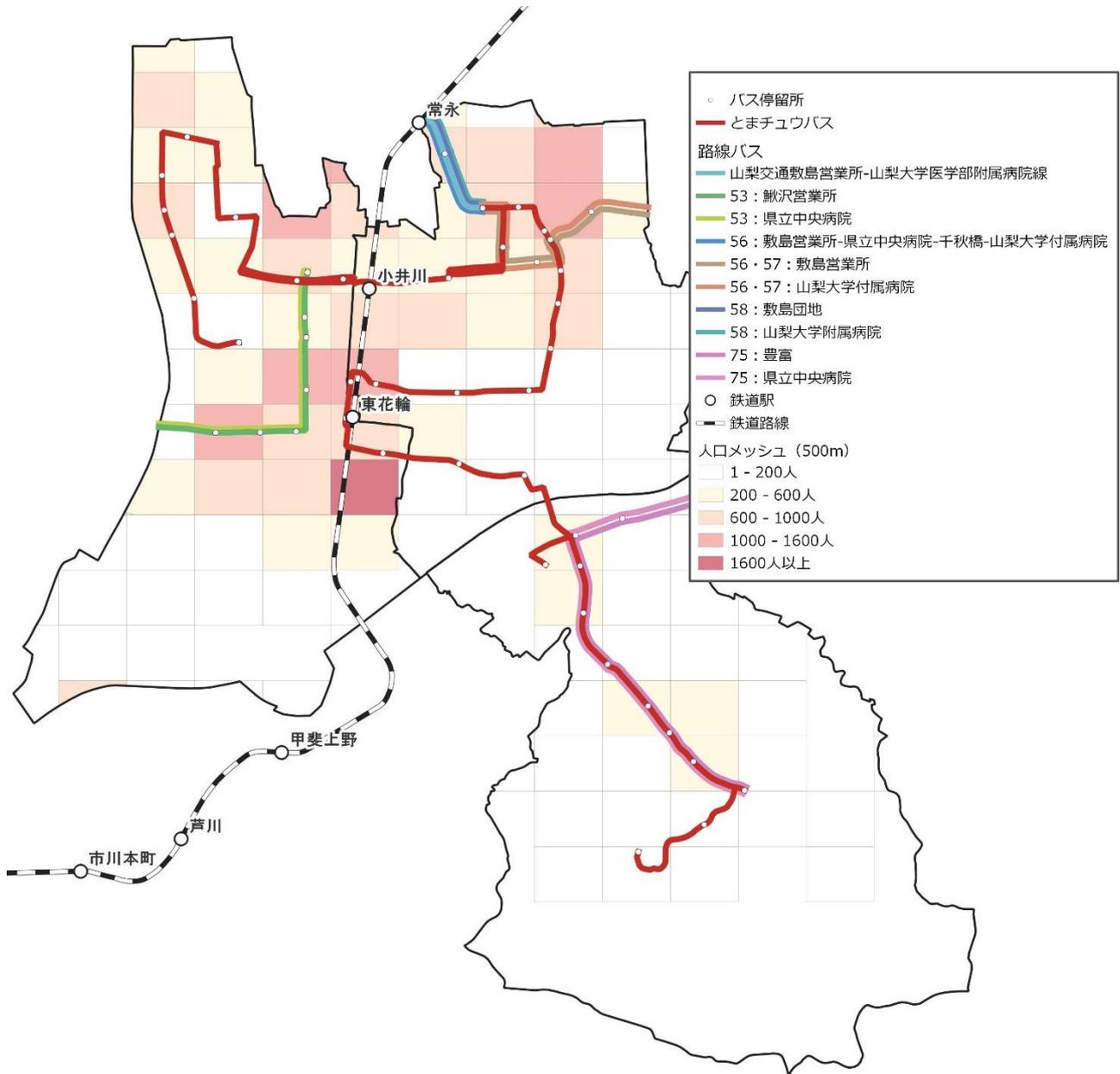
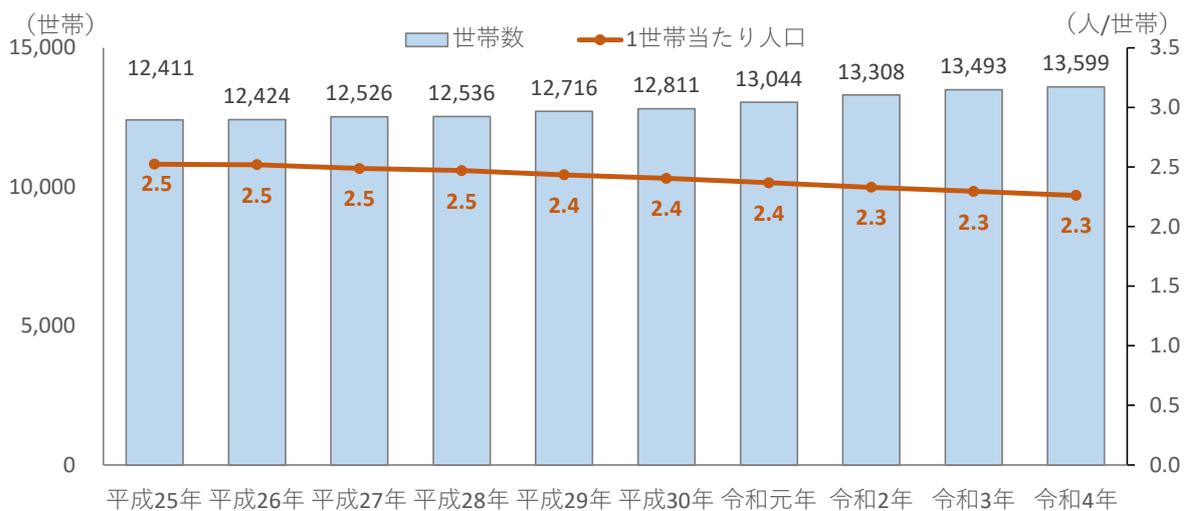


図 人口分布

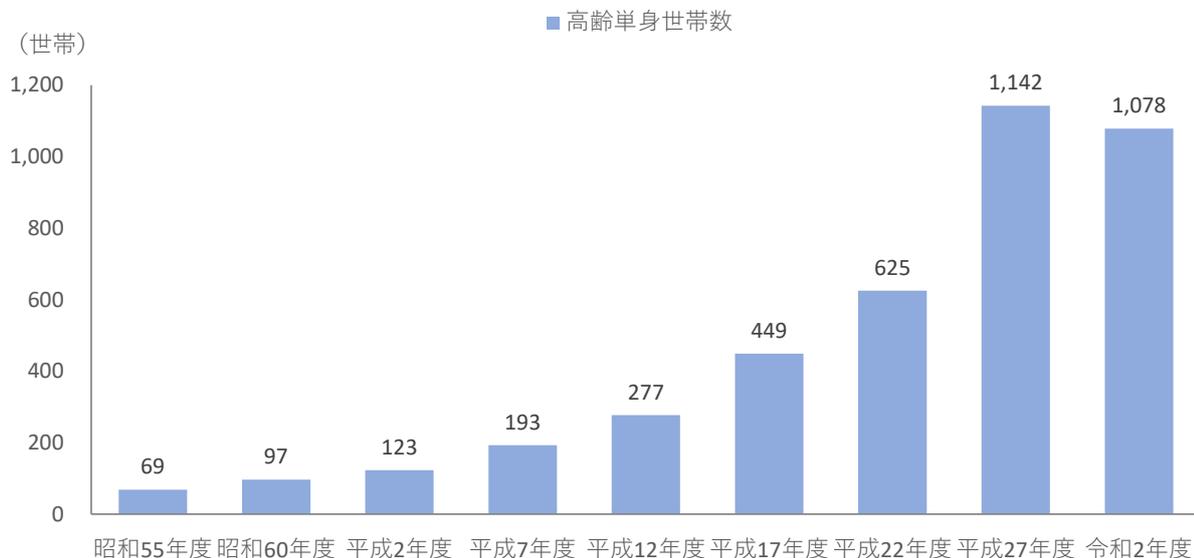
5) 世帯数

- 世帯数は増加傾向にあり、令和4年で13,599世帯と、5年前の平成29年と比べて約880世帯増加している。
- 一方、一世帯当たりの人口はゆるやかな減少傾向にあり、令和4年で2.3人/世帯となっている。
- 高齢単身世帯数をみると、増加傾向にあり、平成27年時点で1,142世帯となっていることから、今後、公共交通サービスの必要性は高まることが考えられる。



出典：総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査（各年1月1日現在）

図 世帯数



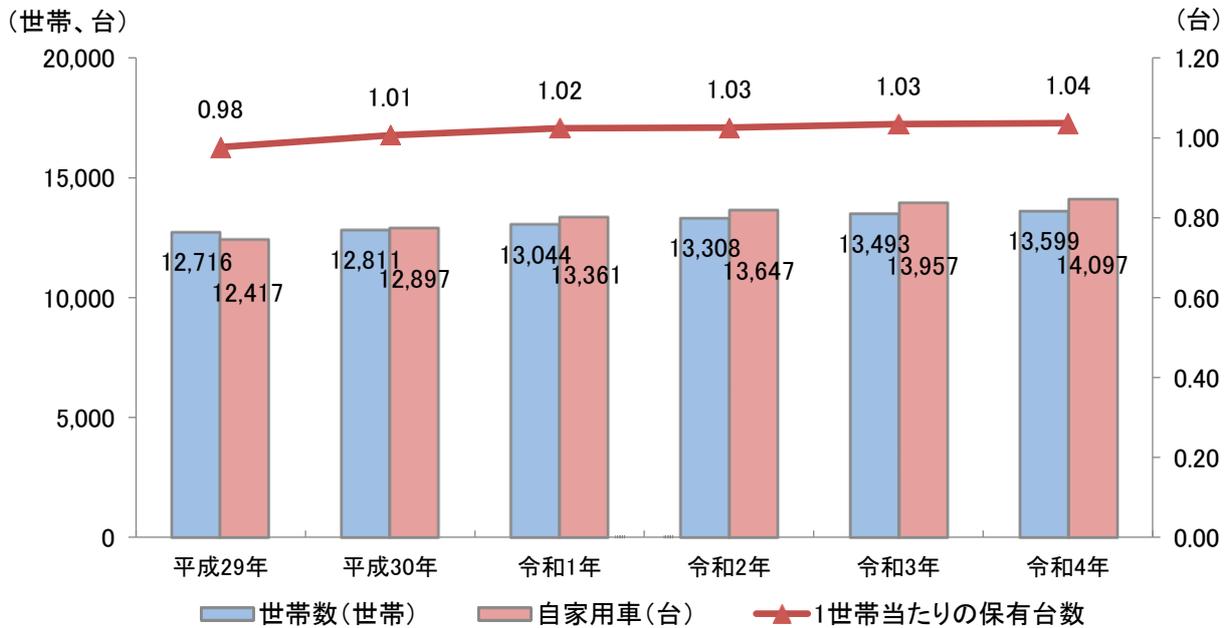
出典：国勢調査

図 高齢単身世帯数

1-1-3 自家用車の保有状況

1) 自家用車の保有数

- 自家用車の保有数は増加傾向にあり、令和4年時点では14,097台となっている。
- 1世帯当たりの保有台数は、令和4年時点で1.04台/世帯であり、自家用車依存が高い状況である。



出典：山梨県自動車保有台数調査

図 自家用車保有台数

2) 運転免許の保有数

- 運転免許の保有数は、全体で●人であり、そのうち65歳以上の高齢者は●人となっており、免許保有者の●%が65歳以上の高齢者となっている。

データ確認中

出典：●●

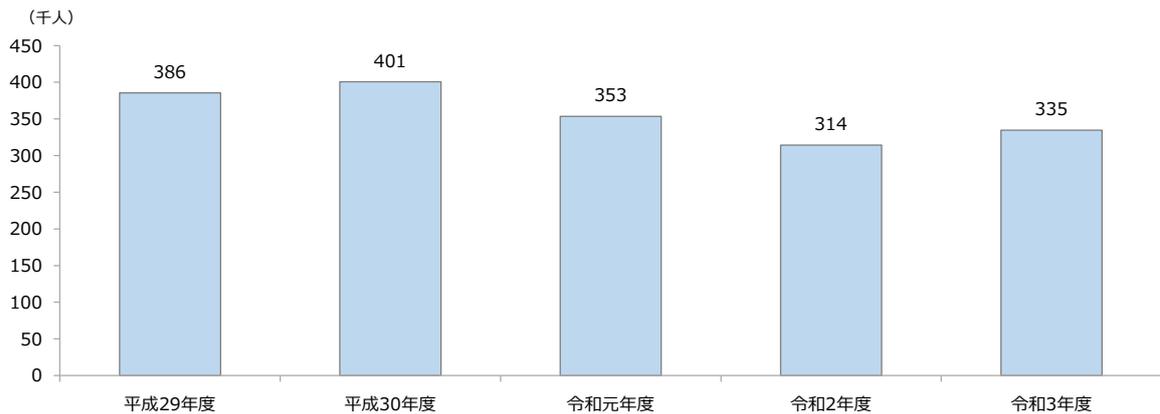
1-1-4 交通事故の発生状況

- 交通事故の発生状況は、
- そのうち高齢者ドライバーが関与した件数は、

データ確認中

1-1-5 観光者数

- 観光入込客数の推移を見ると、減少傾向となっており、令和3年度は約34万人と平成29年に比べて、約5万人減少している。
- 主な観光施設別の入込客数を見ると、「道の駅とよとみ」が最も入込客数が多く約26万人、次いで「四季新鮮収穫広場た・から」が約13万人と多い。



出典：山梨県観光入込調査報告書

図 観光入込客数

表 施設別観光入込客数

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	増減率 H29-R3
四季新鮮収穫広場た・から	130,847	122,595	118,442	126,039	127,739	-2.4%
中央市豊富郷土資料館	5,594	3,951	3,915	2,192	3,493	-37.6%
シルクふれんどりい	35,696	33,743	33,961	30,103	30,427	-14.8%
道の駅とよとみ	308,010	286,974	274,972	234,193	257,107	-16.5%
合計	480,147	447,263	431,290	392,527	418,766	-12.8%

出典：市提供資料

1-1-6 施設立地状況

1) 概観

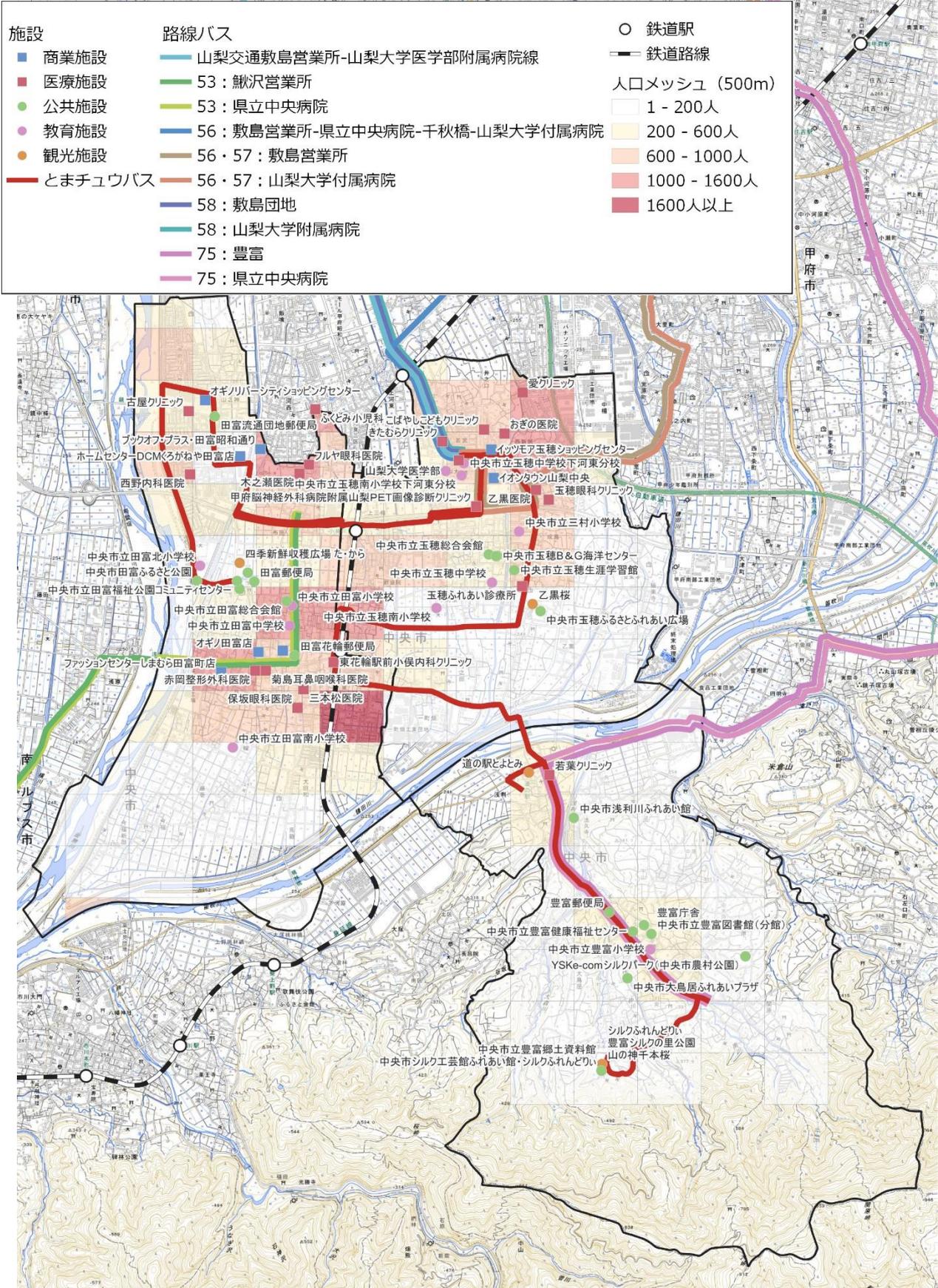


図 主要施設の立地状況

2) 主な商業施設

○ 一定以上の規模を有する商業施設は、西花輪、山之神、下河東に集積している。一方で、豊富地区には立地が見られない。

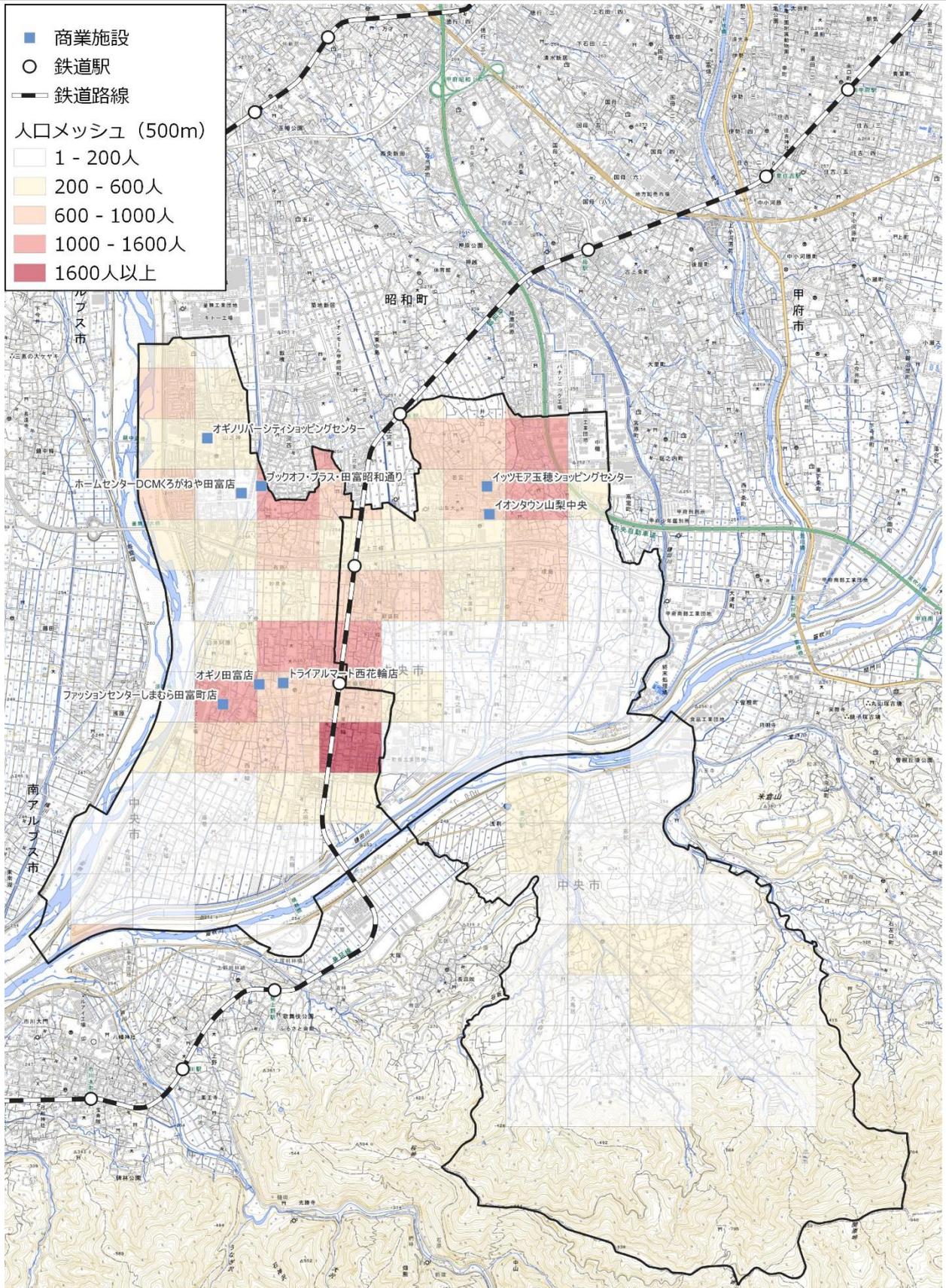


図 商業施設の立地状況

3) 主な医療施設

○ 医療施設は、田富地域と玉穂地域に多く立地している。豊富地域にはほとんど立地していない。

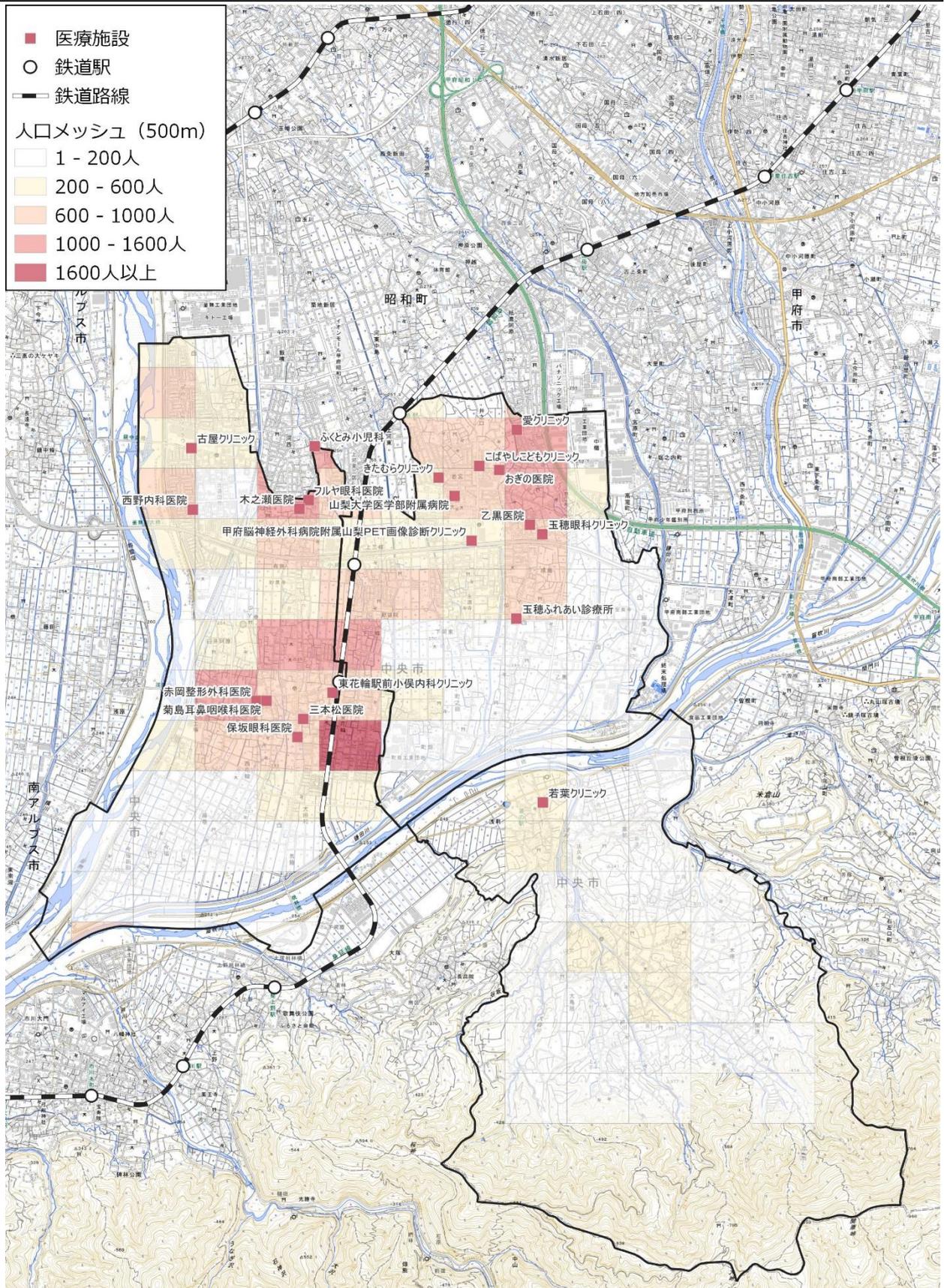


図 医療施設の立地状況

4) 主な公共施設

○ 公共施設は、各地域に一定程度立地している。

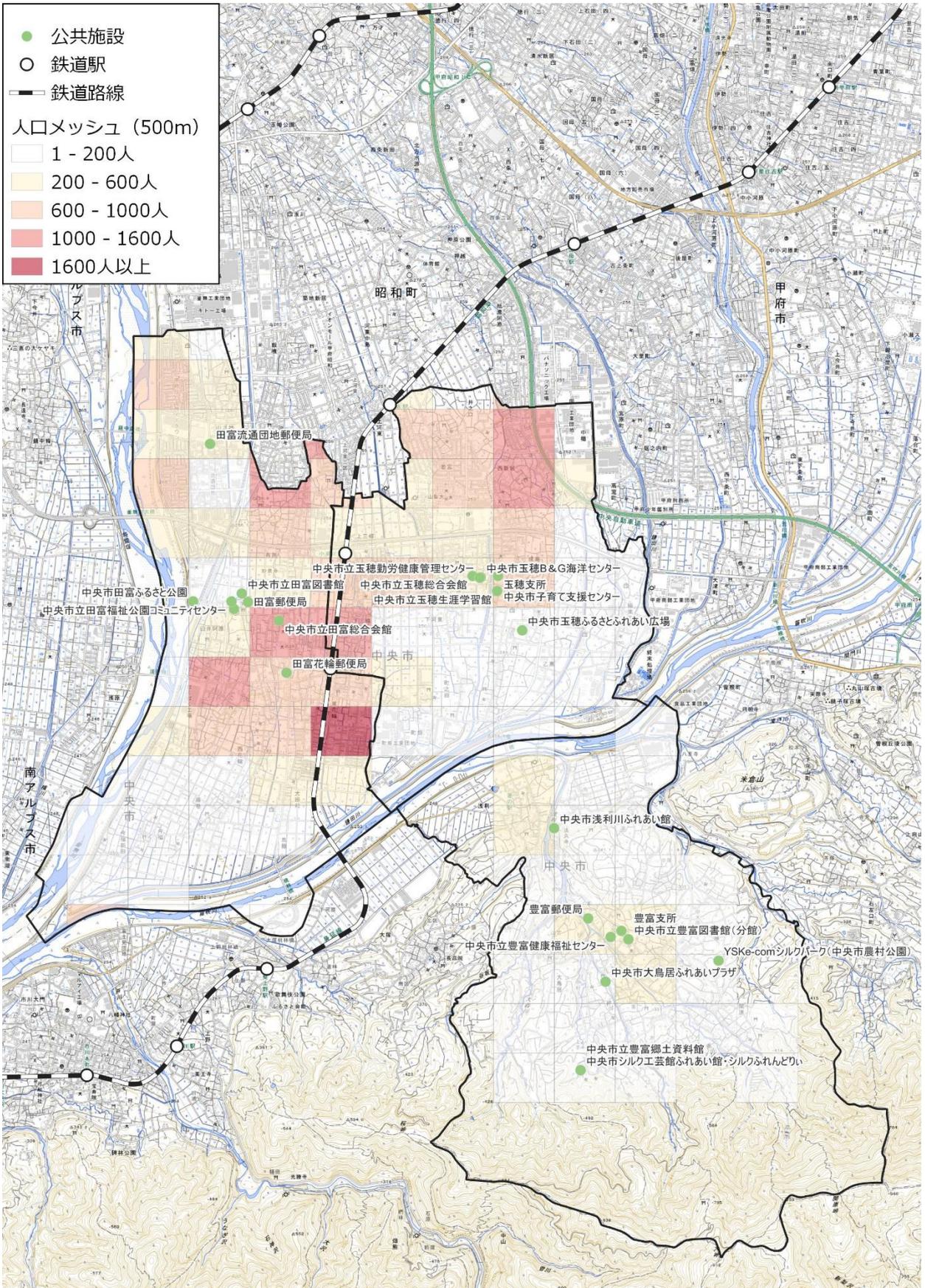


図 公共施設の立地状況

5) 主な教育施設

○ 教育施設は、田富地域と玉穂地域に多く立地している。豊富地域には小学校が1校あるものの中学校は立地していない。

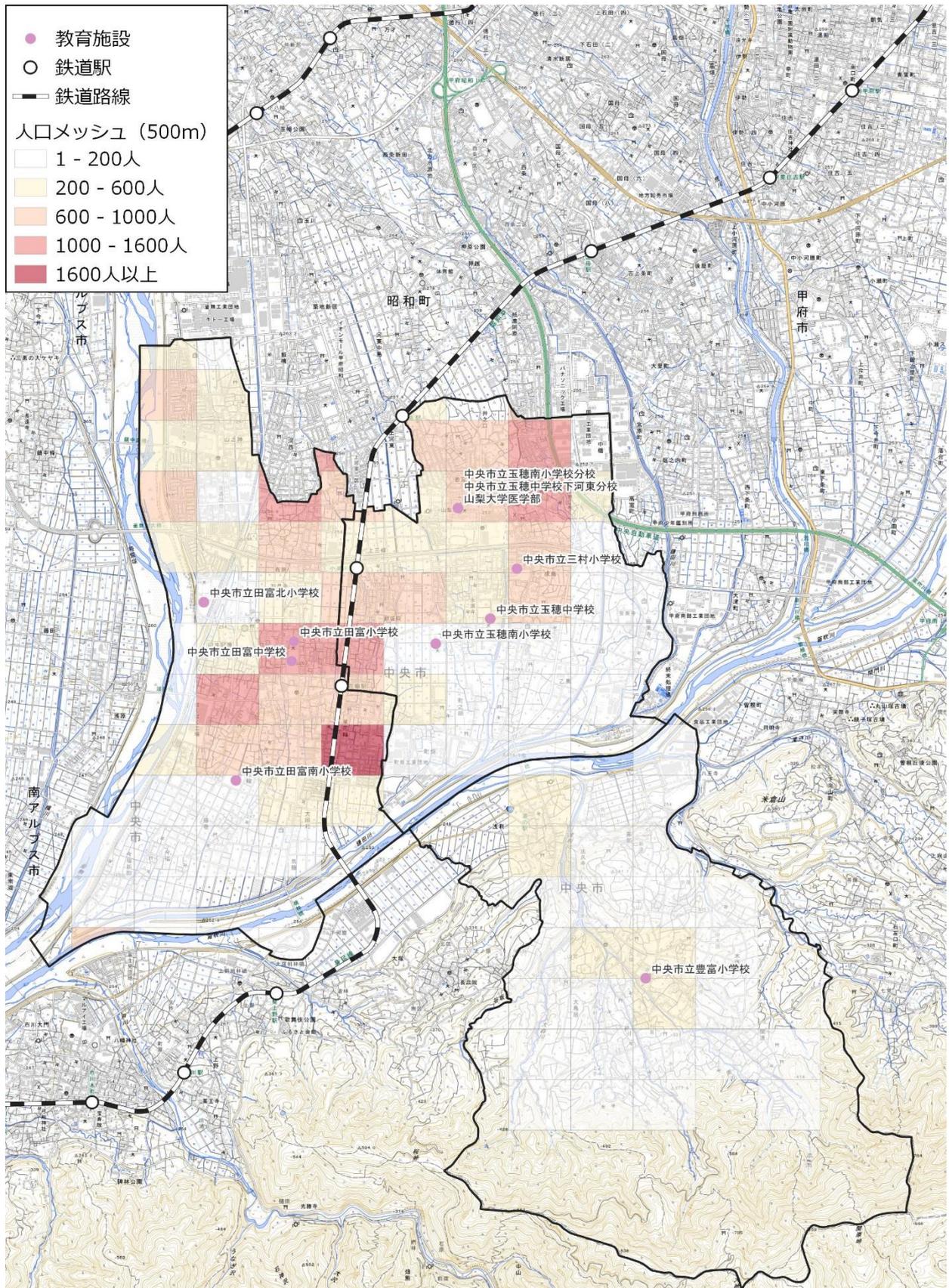


図 教育施設の立地状況

6) 主な観光施設

○ 観光施設は、豊富地域に比較的多く立地している。

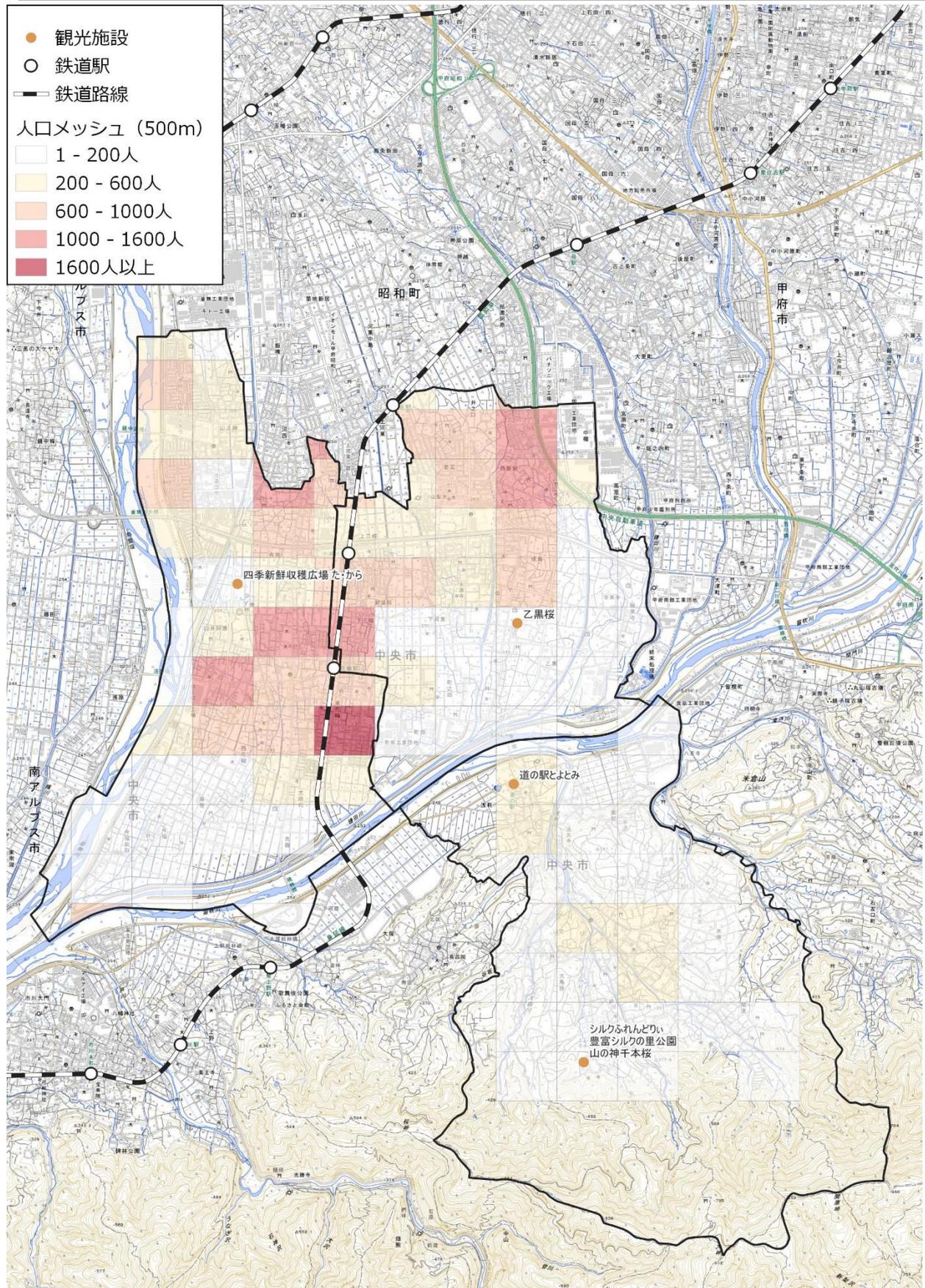


図 観光施設の立地状況

1-2 地域公共交通の現状

1-2-1 既存の地域公共交通網

- 本市の公共交通は、山梨大学医学部付属病院を主な公共交通結節点として、市内に公共交通ネットワークが展開されている。

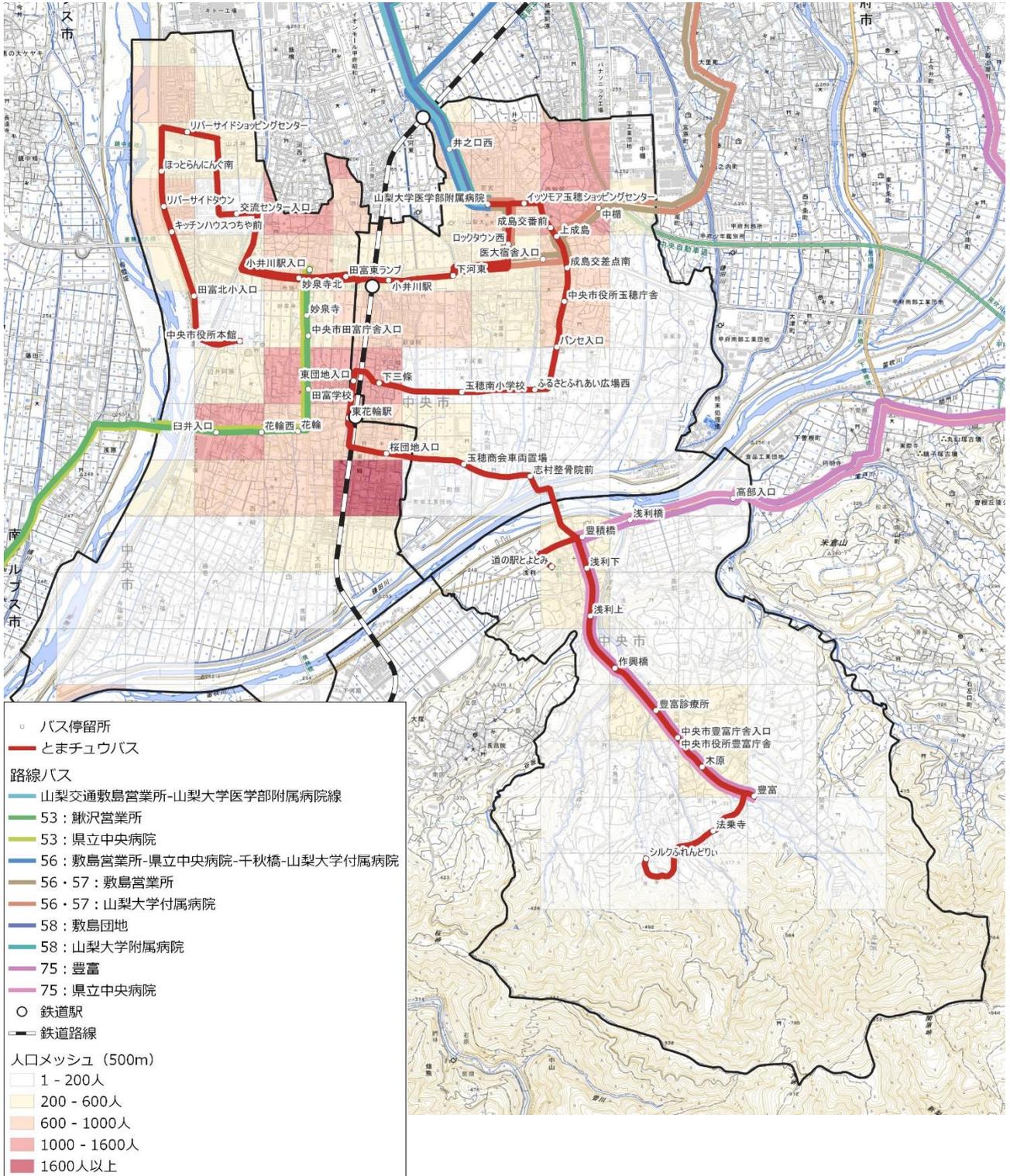


図 市内の公共交通ネットワーク

1-2-2 地域公共交通カバー圏域 ※1

- 概ね人口集積がみられるエリアはカバーされている。鉄道及びバス交通が利用可能な人口は約 24,000 人であり、全人口の約 76%となっている。
- 一方で、西新居や西花輪、山之神では一定程度の人口集積があるものの公共交通カバー圏域外となっており、公共交通を利用しにくい状況となっている。

地域公共交通カバー人口は、総務省統計局の令和2年国勢調査地域メッシュデータ※2を利用して、鉄道・バス交通のカバー圏域人口を算出。その場合、カバー圏域を鉄道については駅から徒歩 800m以内、バスについてはバス停留所から徒歩 300m以内とした。

※1 カバー圏域：路線バスやコミュニティバス等の利用可能な範囲。一般的にはバス停留所から半径 300m 程度

※2 メッシュデータ:地域を格子状に区切った単位で、その範囲における情報を格納したデータ

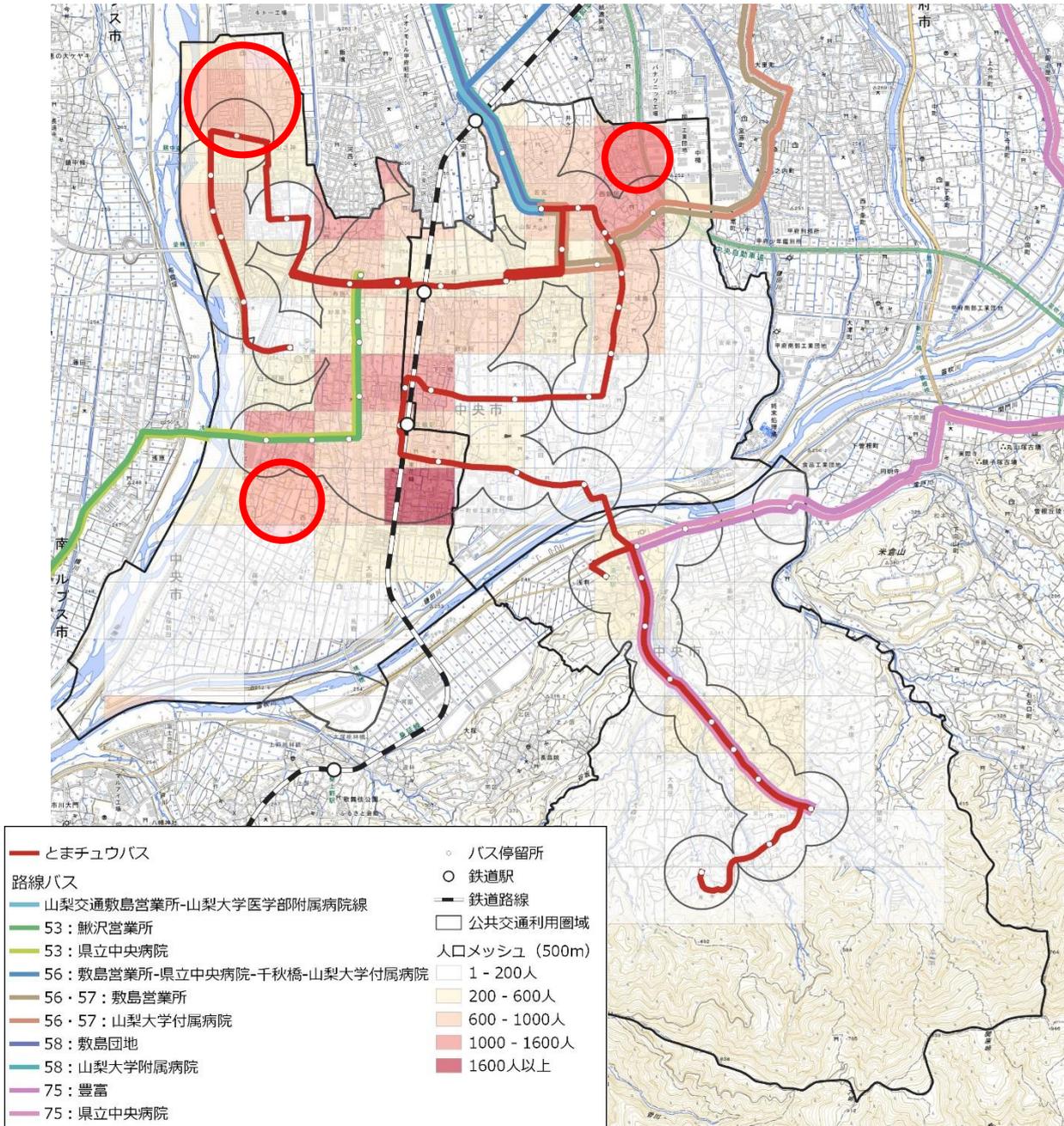


図 人口メッシュと公共交通の運行状況

1-2-3 地域公共交通の利用状況

① 鉄道

- 令和3年度の駅別の乗車人数を見ると、東花輪駅での利用が多く約20万人、小井川駅での利用は、約7万人である。
- 推移をみると、東花輪では令和元年度から令和3年度にかけて乗車人数が大きく減少しており、約6万人の減少（約2割減）がみられる。

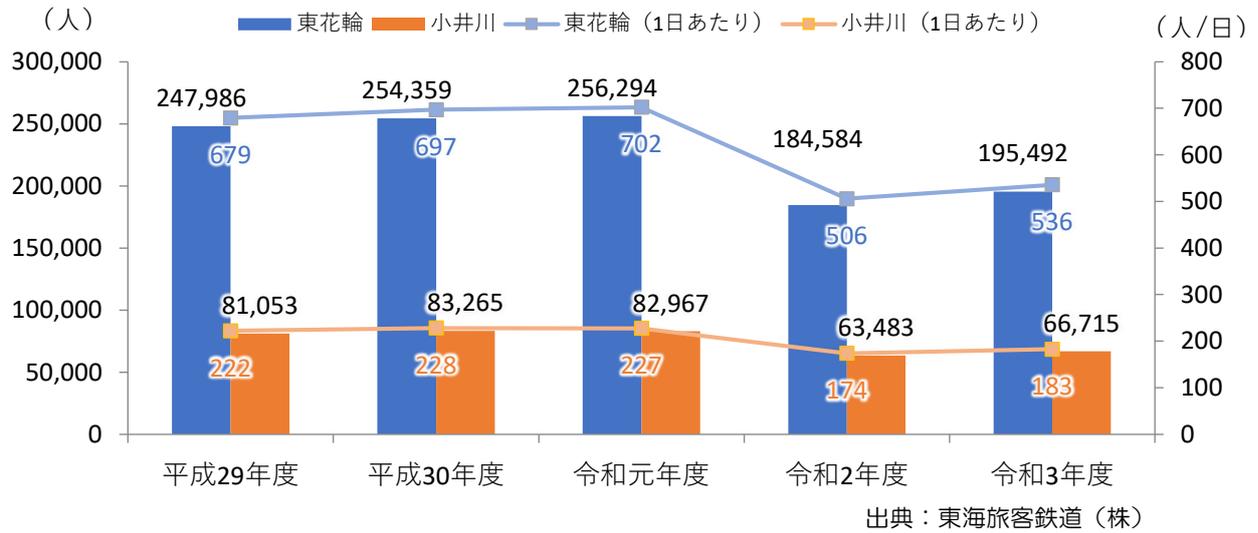
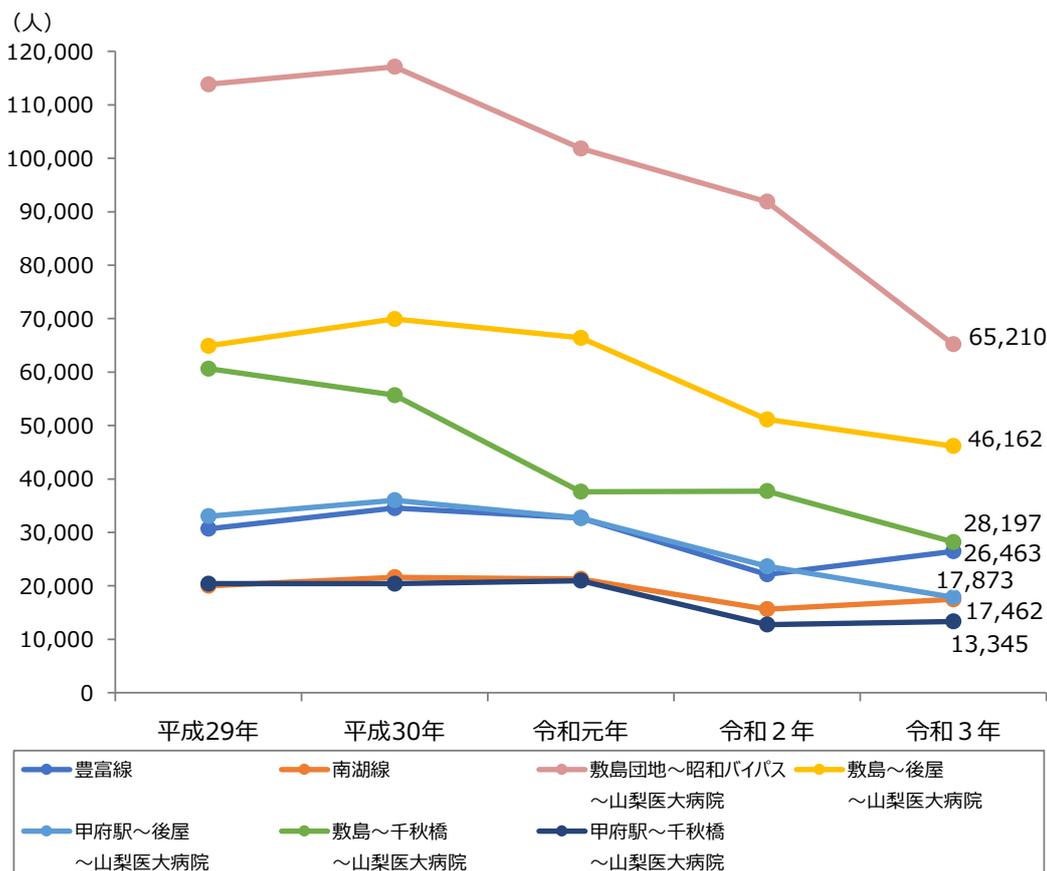


図 駅別乗車人数

2) 路線バス

- 令和3年度の輸送実績は214,712人、前年度と比較して約16%減少しており、平成29年度と比較すると約38%減少している。
- 推移をみると、いずれの路線も横ばいまたは減少傾向にある。
- 中でも「敷島団地～昭和バイパス～山梨医大病院」の乗車人員は減少が大きく、令和3年度と平成29年度を比較すると約57%減少している。



出典：市提供資料

図 路線別の利用者数の推移

表 路線別の利用者数の推移

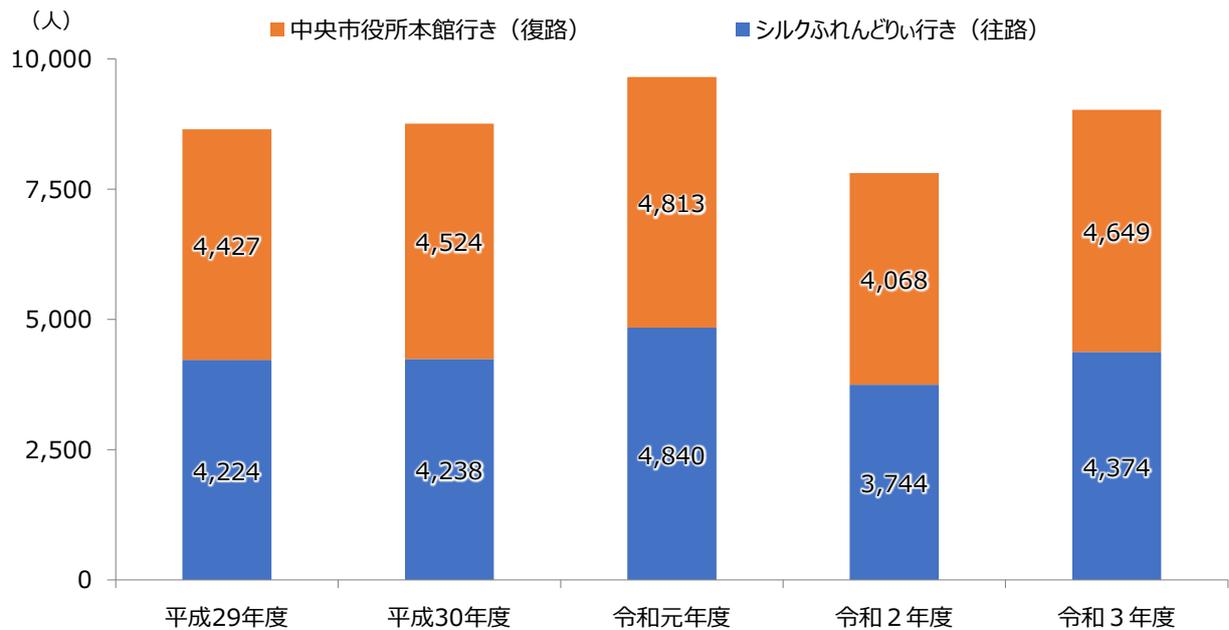
路線名（経路等）		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	増減率 H29-R3
豊富線	県立中央病院～甲府駅 ～中道橋～豊富	30,676	34,541	32,706	22,134	26,463	-13.7%
南湖線	鵜沢～南湖経由～甲府駅 ～県立中央病院	20,008	21,606	21,281	15,622	17,462	-12.7%
医大経由	敷島団地～昭和バイパス ～山梨医大病院	113,849	117,123	101,836	91,874	65,210	-42.7%
医大経由	敷島～後屋～山梨医大病院	64,905	69,928	66,402	51,145	46,162	-28.9%
医大経由	甲府駅～後屋～山梨医大病院	33,019	36,005	32,670	23,653	17,873	-45.9%
医大経由	敷島～千秋橋～山梨医大病院	60,649	55,672	37,622	37,732	28,197	-53.5%
医大経由	甲府駅～千秋橋～山梨医大病院	20,400	20,399	20,969	12,757	13,345	-34.6%
合計		343,506	355,274	313,486	254,917	214,712	-37.5%

出典：市提供資料

3) コミュニティバス（とまチュウバス）

① 利用者数の推移

- 令和3年度の利用者数は約9,000人である。
- 推移をみると、令和元年度までは増加傾向であったが、令和2年度に新型コロナウイルス感染症の影響により利用が落ち込んでいる。令和3年度では利用が戻り、平成30年度と同程度の利用者数となっている。

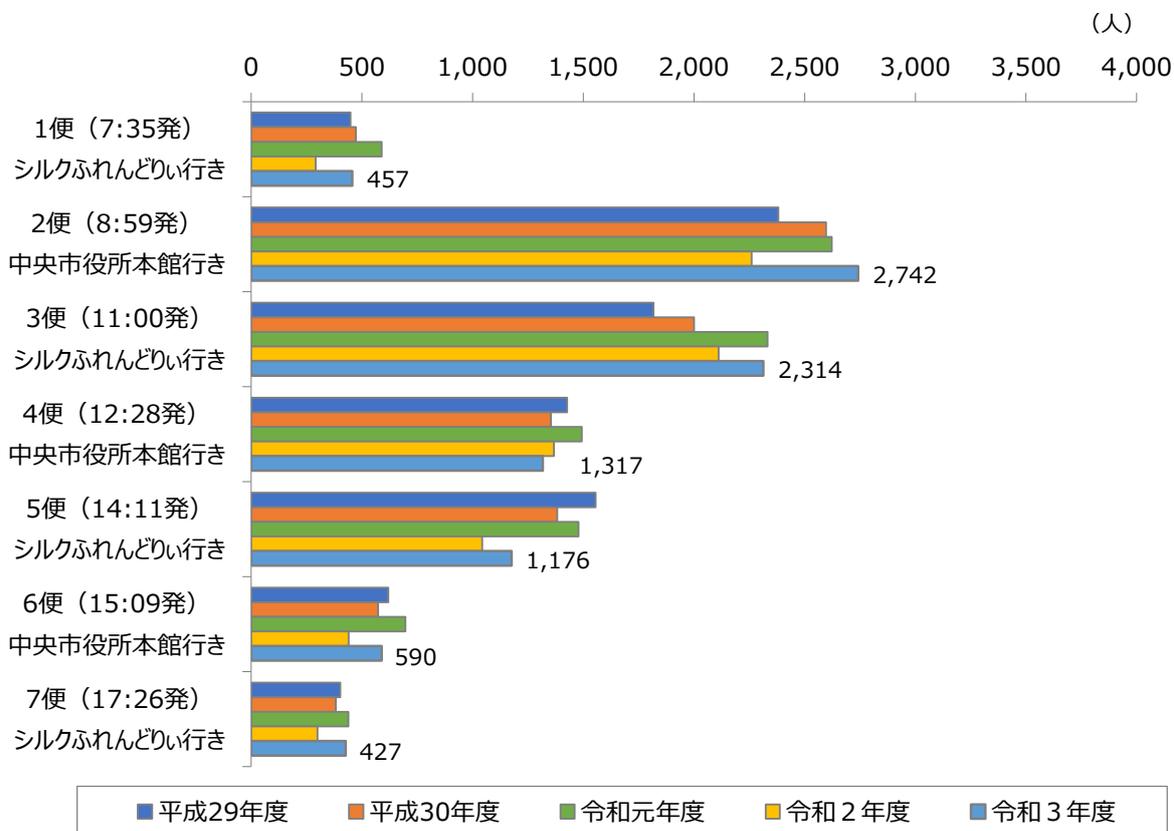


出典：市提供資料

図 利用者数の推移

② 便別利用者数の推移

- 便別利用者数をみると、2便（2,742人）、3便（2,314人）の利用が多い。3便、4便でも一定程度の利用が見られる。
- 一方で、1便、6便、7便の利用者数は少なく、600人未満となっている。

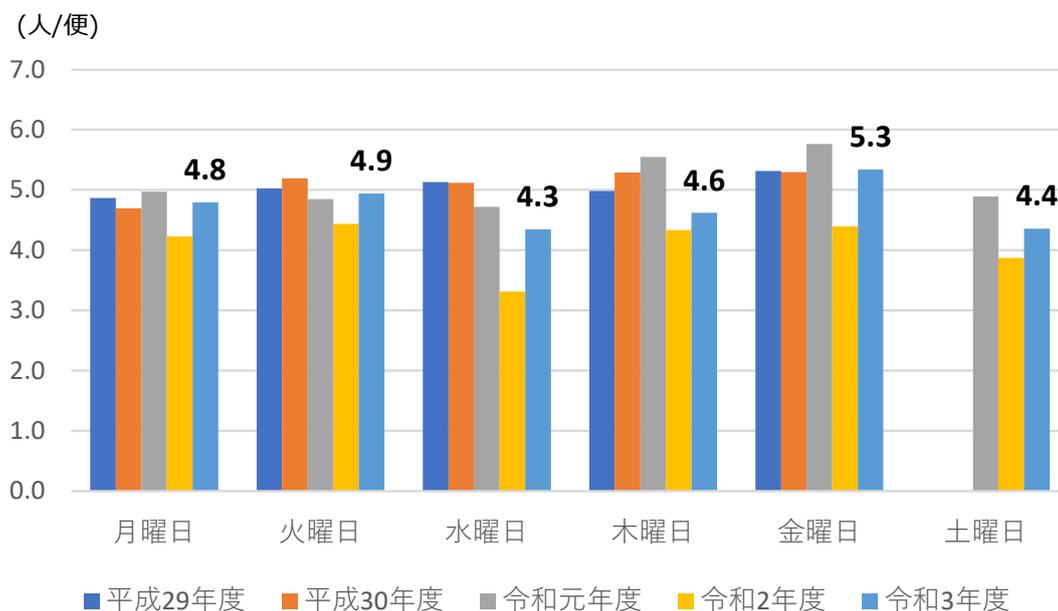


出典：市提供資料

図 便別利用者数

③ 曜日別の1便当たりの利用者数

- 曜日別に1便当たりの利用者数をみると、平日・土曜日ともに1便あたり4人～5人程度の利用が見られる。



出典：市提供資料

図 曜日別の1便当たりの利用者数

1-2-4 収支状況

1) 路線バス

- 路線別に収支状況を見ると、●●線、●●線の収支率が低い状況である。
-

データ確認中

2) コミュニティバス（とまチュウバス）

- 令和3年度の協議会支出委託料は5,575千円、国補助金は4,997千円である。
- 推移をみると、協議会支出委託料および補助金は概ね増加傾向である。加えて利用者数も増加している。
- 利用者一人当たりの協議会支出委託料は、近年では増加傾向である。

表 利用者数と運行経費の推移

	平成 29年度	平成 30年度	令和元年	令和2年度	令和3年度	増加率 H29-R3
利用者数（人）	8,651	8,762	9,653	7,814	9,023	4.3%
運賃収入（千円）	981	1,004	1,003	768	834	-14.9%
協議会支出委託料（千円）	4,417	4,843	4,860	3,784	5,575	26.2%
国補助金（千円）	4,290	3,787	5,470	6,895	4,997	16.5%
利用者一人あたりの協議会支出委託料（円）	511	553	503	484	618	21.0%

出典：市提供資料

■地域特性の整理・分析(概要版)

視点1:地域特性 からみた現状・問題点

- 国立社会保障・人口問題研究所による人口推計では、2045年まで人口が減少すると推計されており、24,660人まで減少(約1割減)すると推計されている。
- 75歳以上の人口は、2025年以降も増加し、2045年には6,266人まで増加することが見込まれている。
- 令和3年度の年齢別人口を見ると、40代が4,525人、50代が4,347人と多くなっており、60歳以上の人口は、全人口の31.9%となっている。
- 豊富地域では、人口が約3,000人程度と比較的少なくなっている。加えて、高齢化率も33.3%となっており、市内でも高齢化が進行している地域である。
- 市外への通勤流出は、甲府市(3,441人)・昭和町(1,392人)・南アルプス市(1,123人)・甲斐市(590人)の流出が多い。
- 市外への通学流出は、甲府市(598人)の通学が多い。また、市川三郷町、昭和町への流出も見られる。
- 観光入込客数は、減少傾向となっており、令和3年度は約34万人が訪れている。

視点2:地域公共交通の状況 からみた現状・問題点

- 西新居や西花輪、山之神では一定程度の人口集積があるものの公共交通空白地域となっており、公共交通を利用しにくい状況となっている。
- 人口集積が比較的多くない西花輪駅南西部や豊富地域も大部分が公共交通空白地域となっている。
- 駅別乗車人数をみると、東花輪駅では令和元年度から令和3年度にかけて乗車人数が大きく減少しており、約6万人の減少(約2割減)がみられる。
- 令和3年度の路線バス輸送実績は214,712人、前年度と比較して約16%減少しており、平成29年度と比較すると約38%減少している。
- コミュニティバスに対する協議会支出委託料・利用者一人当たりの協議会支出委託料は共に増加傾向である。

視点3:上位関連計画における公共交通の位置づけ からみた現状・問題点

- (総合計画・都市マス・中央市リニア活用基本構想等における位置づけを整理)
- 山梨県が地域公共交通計画(令和6年4月策定)の策定を進めており、連携しながら検討を進める必要がある。

その他:社会動向・まちづくりの変化

- 全国的にデジタル技術を活用し、公共交通の利便性向上や運行効率化を図る取組が推進されている(MaaS、AIオンデマンド、自動運転など)。
- リニア中央新幹線が2027年に東京～名古屋間を開通予定である。甲府市大津町に「リニア山梨県駅」が新設予定。
- 国土交通省が設置した「鉄道事業者と地域の協働による地域モビリティの刷新に関する検討会」では、利用の少ないローカル線区は沿線自治体を中心となって、あり方を検討することを基本原則として示している。※JR東海で収支状況を公表していない。

※今後実施する、市民アンケート調査、バス利用実態調査、関係者ヒアリングなどの調査を踏まえて、現在記載している現状・問題点や課題をブラッシュアップしていく。

課題1:地域に応じた公共交通サービスの提供

- 西新居や西花輪、山之神では一定程度の人口集積があるものの公共交通空白地域となっており、公共交通を利用しにくい状況となっている。
- 人口集積が比較的多くない西花輪駅南西部や豊富地域も大部分が公共交通空白地域となっている。
- 豊富地域では、人口が約3,000人程度と比較的少なくなっている。加えて、高齢化率も33.3%となっており、市内でも高齢化が進行している地域である。また、当地域は商業施設や医療施設の立地が少ない。
- 市の人口は横ばいに推移しており、令和7年には増加すると推計されている。
- 以上のことから、公共交通空白地域のうち人口集積がみられるエリア、高齢化が進行しているエリアを中心に移動手段確保に向けた検討を行う必要がある。また、人口が増加している地域・増加する地域の公共交通サービスの向上に向けた検討が必要である。

課題2:広域の移動を支える公共交通サービスの検討

- 通勤通学流動をみると、甲府市・昭和町・南アルプス市など市外への移動も一定数みられる。
- 広域の移動を担う路線バスの利用が低迷している
- 年間約34万人の観光客が本市を訪れている。
- リニア中央新幹線が2027年に東京～名古屋間を開通予定である。甲府市大津町に「リニア山梨県駅」が新設予定であり、今後市外への移動需要や市内への観光需要は高まることが考えられる。
- 山梨県が地域公共交通計画(令和6年4月策定)の策定を進めており、連携しながら検討を進める必要がある。
- 以上のことから、リニア中央新幹線の開通や山梨県の計画策定動向に留意しながら、広域路線の利便性向上・運行効率化に向けた検討が必要である。

課題3:公共交通サービスに係る市負担額の適正化

- コミュニティバスに対する協議会支出委託料・利用者一人当たりの協議会支出委託料は共に増加傾向。
- 以上のことから、路線バスやコミュニティバスの運行見直し等を行い、公共交通に係る市の負担額の適正化を図る必要がある。ただし、過度なサービス削減は利用者減少につながるため、可能な限り利便性の維持を図る。

課題4:鉄道や路線バスを中心とした利用促進

- 駅別乗車人数をみると、東花輪駅では令和元年度から令和3年度にかけて乗車人数が大きく減少しており、約6万人の減少(約2割減)がみられる。近年、収支状況が悪い鉄道路線を対象に廃止検討される動きもある。
- 路線バスの令和3年度の輸送実績は214,712人、前年度と比較して約16%減少しており、平成29年度と比較すると約38%減少している。
- 以上のことから、鉄道や路線バスを中心とした利用促進策を展開し、公共交通サービスの維持を図る必要がある。

課題5:利用促進・運行効率化に向けたデジタル技術活用の研究

- 全国的に公共交通分野において、デジタル技術の活用によって公共交通の利便性向上や運行効率化を図る取組が推進されている。
- 本市においても路線バスの利用者数減少や収支状況の悪化を抱えている。
- 以上のことから、デジタル技術活用の取組事例の整理や本市における導入可能性の検証などを行うことが必要であると考えられる。